

授業科目(ナンバリング)	生命倫理 (AB113)			担当教員	太田一寿・小林秀光・和田守正・隈博幸		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
年々複雑化する医療に対して、医師、薬剤師、看護師、社会福祉士、管理栄養士など幅広い視点で医療を進めていく必要性が高まり、「医療チーム」という概念が導入されている。医療チーム構成要員は基盤となる医学的背景を共有し、一丸となって患者のケアに当たる必要がある。そのために必要な医療に関する歴史・基本的法制を理解できるようになるとともに、他人の生命に関わる視点から、「生命の尊厳」について深く考察できるようになる。							⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1)医療の歴史や医療倫理に関する規範について説明することができる。(2)インフォームド・コンセントの定義と必要性について説明することができる。(3)先進医療について説明することができる。				・受講者の発表(グループディスカッション・プレゼンテーション) ・課題レポート	10%	50%
情報収集、分析力	講義内容を正しく理解し、適切なレポート課題作成用の資料(書籍・映像)を選択できる。				・課題レポート	20%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	(1)高い倫理観を有し、医療人として人間尊重に基づく責任を持った行動をとることができる。(2)医療の進歩に関心を持ち、生涯にわたって学び続ける姿勢を示すことができる。				・課題レポート ・授業態度・授業への参加度	5%	5%
多様性理解力	自分の主張とは異なる他者の考え方を認め、尊重することができる。				・課題レポート	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>期末(1月末)に「生命倫理に関するレポート」を課し、評価を行う。また、学生諸君が広く「生命」について考えるために、講義後に宿題として読書や感想文提出を課すこともある。また、それらに関連して、講義中にグループディスカッションやプレゼンテーションも行う予定であるが、詳細は講義内で指示する。なお、プレゼンテーション実施時に、会話能力を理由に分担を拒絶することは認めない。これら課題や提出物を主に、授業態度や参加状況などと総合的に判断する。なお、フィードバックは、授業及びポートフォリオにおいて適宜行う。</p> <p>*レポート等プロダクトはポートフォリオに提出・保管する場合がある。</p>							
授業の概要							
<p>ヒトの生死に関する倫理観の養成、医療倫理の規範となるべき基本理念(ジュネーブ宣言・ヘルシンキ宣言)の内容の理解、それを受けての我が国での医療現場での対応(インフォームドコンセント、治験の現状)についての解説、出生前診断や遺伝子治療など、著しく進歩する現代医療に対する医療人としての倫理的対応などについて詳解していく。一部の講義を双方向スタイルで行う予定であるので、通信端末(スマートフォン、PC)の準備が望ましい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 指定図書：「人魚の眠る家」東野圭吾/著・幻冬舎</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
医療チームの一員・医療従事者に必要な医療倫理、生命倫理観を学び、「生命とは何か」「医療とは何か」を自分なりに考える習慣を身につけてほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	生命倫理とは	生命倫理についてのイントロダクション (太田)	なぜ生命倫理を学ぶのかを自分なりに考えてみる。
2	ヒューマニズムと医療 (1)	ヒトの生き方と医療との関係について (太田)	優生学の妥当性・危険性を考察する。
3	ヒューマニズムと医療 (2)	医療の担い手が守るべき倫理規範 (太田)	医療倫理規範と薬害について考察する。
4	生と死 (1)	ヒトの誕生と死について：生命の尊厳、医療の目的、医療と生命倫理 (太田)	生殖補助医療の意義・問題点について考察する。
5	生と死 (2)	ヒトの命の質について：ロングフル・ライフ、出生前診断、妊娠中絶論争 (太田)	人工妊娠中絶の妥当性・問題点について考察する
6	生と死 (3)	ヒトの死について：ヒトの死とは、リビング・ウィルと尊厳死 (太田)	終末期医療の意義・問題点について考察する。
7	生と死 (4)	脳死と臓器移植について (太田)	臓器移植の意義・問題点について考察する。
8	わが国の感染症法	わが国の微生物感染症に関する法律の歴史：人権保護の観点による改正 (小林)	感染症法について復習する。
9	性行為感染症 (STD)	AIDS や淋病などの性行為感染症の分類と性のモラル (小林)	性行為感染症について復習する。
10	リハビリテーションの理念と先端ロボット技術	リハビリの基本理念とは何か (支援ロボットの活用状況) (高杉：ゲストスピーカー)	リハビリテーションの理念と先端ロボット技術
11	生命技術と生命倫理 (1)	遺伝子技術 (遺伝子組換え・ <u>遺伝子診断</u> ・遺伝子治療) と生命倫理 (和田)	生命技術と生命倫理 (1)
12	生命技術と生命倫理 (2)	クローン・幹細胞技術と生命倫理 (和田)	生命技術と生命倫理 (2)
13	医療の担い手としての心構え (1)	ヒトゲノムとその取扱い (和田)	医療の担い手としての心構え (1)
14	医療の担い手としての心構え (2)	我国におけるインフォームドコンセントや治験の現状、医療人として守るべき守秘義務について (隈)	医療の担い手としての心構え (2)
15	医療の担い手としての心構え (3)	患者中心の医療とは・まとめ (太田)	医療の担い手としての心構え (3)